現代韓国社会における若年男性の家族形成意識：韓国内の研究動向とインタビュー調査を中心に

柳　煌碩（日本大学非常勤講師）

本報告は、韓国における若年男性の家族形成に関する意識についてのインタビュー調査に基づいて仕事・教育・社会観・ジェンダー観など複合的な視覚から検討することを目的とする。

2023 年、韓国の合計出生率は 0.72 と発表され、世界で最も低い値を記録した。韓国における多くの先行研究や調査では、少子化の原因を若者の教育から労働への「移行」の停滞や価値観の変化などによる晩婚化・未婚化に求めている。

韓国統計庁(2023)の発表によれば、韓国の初婚年齢は男性 33.9 歳、女性 31.4 歳とそれぞれ 31.1 歳、29.7 歳を記録した日本（厚生労働省, 2022）と比べても高く、婚姻件数も 2013 年約 32.3 万件から 2023 年 19.4 万件と過去 10 年間おおよそ 40%の減少幅を見せている。

こうした家族形成をめぐる韓国社会の変動は、婚姻や出産といった行動的側面のみならず、結婚や出産に関する意識の面における変化も大きい。韓国統計庁（2023）によれば、結婚に対する肯定的意識は過去 10 年間約 20%減少した 36.4%を記録し、「結婚後も子どもを産む必要はない」に対する意識も過去 4 年間約 7%増加しているなど、結婚と出産に対する肯定的意識も次第に弱まっていることが報告されている。

さらに家族形成に関する若者の意識は、性別による違いに留意が必要である。フェミニズムやミソジニーといったジェンダーをめぐる葛藤が活発に見られる韓国だが、特に 20 代〜30 代の若年層はジェンダー葛藤が最も激しい年齢層であり、教育・仕事・結婚・出産など様々なライフイベントや社会課題に対する認識も男女間で大きな差が見られるとされている（韓国女性政策研究院, 2015）。

本報告では、若者の家族形成、とりわけ結婚に関する韓国国内の研究動向を整理した上で、政治的・社会的に「保守的」とされている（韓国女性政策研究院, 2015）韓国の嶺南地方の若年男性（25〜35 歳）を対象に行ったインタビュー調査の結果を報告する。インタビュー調査においては、①調査対象者の教育から労働への移行過程、②親世代の家族像あるいは「近代家族」的家族像への意識、③結婚に対する展望と必要とされる要件についての意識、④「能力主義」「フェミニズム」などについての意識について尋ね、それぞれの要素が若年男性の家族形成意識とどのような関係にあるのかを確かめる。これらを通して「圧縮された近代（Chang, 2010）」とされる韓国における家族形成や家族意識の変化の一部を検討できればと思う。

Chang. K. S., 2010, South Korea under Compressed Modernity：Familial Political Economy of Transition．London: Routledge.

韓国女性政策研究院（2015）「男性の生に関する基礎研究（Ⅱ）：若年層男性の性平等価値葛藤の要因を中心に」（＝한국여성정책연구원, 2015, 남성의 삶에 관한 기초연구(Ⅱ)：청년층 남성의 성평등 가치 갈등 요인을 중심으로)

韓国統計庁（2023）「人口動向調査」（＝통계청, 2023, 인구동향조사)

韓国統計庁（2023）「『社会調査』からみる若者の意識変化」（＝통계청, 「사회조사」로 살펴본 청년의 의식변화)

厚生労働省（2022）「人口動態調査」

キーワード：若者、家族形成、嶺南地方